観光教育に関する実態調査
報　告　書

平成 30 年 3 月

国土交通省
観光庁 観光産業課

目次

- 業務の目的 …… 1
- 業務の内容 …… 1

1. 国内先進事例の調査・収集・整理 …… 2
   - 国内事例①　（私立小学校・東京都）「私立成蹊小学校」 …… 5
   - 国内事例②　（市立小学校・京都府）「宇治市立菟道第二小学校」 …… 6
   - 国内事例③　（市立小学校・福岡県）「うきは市立吉井小学校」 …… 7
   - 国内事例④　（市立小学校・沖縄県）「那覇市立銘苅小学校」 …… 8
   - 国内事例⑤　（村立小学校・沖縄県）「中城村立中城南小学校」 …… 9
   - 国内事例⑥　（市立中学校・秋田県）「鹿角市立八幡平中学校」 …… 10
   - 国内事例⑦　（国立中学校・長野県）「信州大学教育学部附属松本中学校」 …… 11
   - 国内事例⑧　（県立高等学校・岩手県）「岩手県立遠野高等学校」 …… 12
   - 国内事例⑨　（私立高等学校・神奈川県）「法政大学女子高等学校　※注」 …… 13
   - 国内事例⑩　（その他・宮城県）「いしのまきカフェ「」（かぎかっこ）」・「高校生百貨店」 …… 14
2. 国内先進事例の効果検証 …… 15
3. 海外先進事例の調査・収集・整理 …… 17
   - 海外事例①　カナダ・ブリティッシュコロンビア州における高校生を対象とした観光教育 …… 18
   - 海外事例②　スイス・ツェルマットにおける高校生を対象とした自然体験学習 …… 19
   - 海外事例③　ニュージーランドにおける高校生を対象とした観光産業の就業体験 …… 20
4. 海外先進事例の効果検証 …… 21
5. 観光教育のモデル授業構築 …… 22
   - （１）　観光教育の段階と効果 …… 22
   - （２）　観光教育モデル授業の概要 …… 23
   - （３）　観光教育モデル授業案 …… 24
6. 今後の展望 …… 28

※注：平成 30 年３月当時の名称。平成 30 年４月より「法政大学国際高等学校」へ名称変更。

❑ 業務の目的

平成 29 年５月に策定された「観光ビジョン実現プログラム 2017」では、観光教育の充実として、総合的な学習の時間等において、子どもたちが地元や日本各地の歴史や文化の魅力的な観光資源等を理解し、関心を持ち、その魅力を実感・発信できる機会の増加につながるような教材や事例集の作成と普及に取り組むこと、高等学校において、現在選択科目である地理を共通履修科目「地理総合（仮称）」とする検討を行うことが挙げられている。また、文部科学省が平成 30 年３月に公示した高等学校の学習指導要領改定において、地理が必修科目の「地理総合」、選択科目の「地理探究」に再編されるとともに、教育内容の主な改善事項として「職業教育の充実」が掲げられ、その中で、産業界が求める人材を育成するための新設科目として「観光ビジネス」が盛り込まれている。

本事業では、観光教育の充実化を図るべく、国内外の小中高等学校等における観光教育の現状について調査を行い、先進事例の収集・整理と効果の検証を行うとともに、国内における観光教育の推進に資するモデル授業を構築した。

❑ 業務の内容

本業務では、前述の目的を実現するため、以下の１～５の取り組みを実施した。

1. 国内先進事例の調査・収集・整理

   文献調査とヒアリング調査（電話・訪問等）により、全国の小中高等学校等において行われている観光教育の先進事例 10 件を調査・収集した。

2. 国内先進事例の効果検証

   1 の先進事例について、現地ヒアリングやアンケート調査等により効果を検証した。

3. 海外先進事例の調査・収集・整理

   文献調査とヒアリング調査（電話等）により、海外の小中高等学校等において行われている観光教育の先進事例３件を調査・収集した。

4. 海外先進事例の効果検証

   3 の先進事例について、電話でのヒアリング等により効果を検証した。

5. 観光教育のモデル授業構築

   1～4 の調査結果の整理・分析に基づき、今後の観光教育の普及に繋げるためのモデル授業を構築した。

1. 国内先進事例の調査・収集・整理

国内先進事例については、取組の内容が先進的であることに加え、取組に継続性がみられること、定性・定量的な成果の把握が可能であり、モデル授業を検討する際に参考となる汎用性の高いことを前提とし調査対象事例を選定した。また、観光教育の全国的な普及に向け地域バランスも考慮した。

STEP1
・事例収集と一覧表の作成
・専門家ヒアリングによる候補の妥当性確認

STEP2
・電話及び現地ヒアリングによる詳細な取組内容の調査（取組の目的、内容、実施体制、実施期間、予算、取組による成果、運営上の課題、工夫・苦労　等）

STEP3
・事例集としてとりまとめ
・モデル授業構築に反映できる要素の抽出

- 調査方法：文献調査及びヒアリング調査（電話・訪問等）
- 調査時期：平成 30 年 1 月～3 月
- 調査対象：

No	区分	都道府県	学校等の名称	訪問日
①	小学校	東京都	私立成蹊小学校	平成 30 年 2 月 22 日
②	小学校	京都府	宇治市立菟道第二小学校	平成 30 年 2 月 20 日
③	小学校	福岡県	うきは市立吉井小学校	平成 30 年 3 月 19 日
④	小学校	沖縄県	那覇市立銘苅小学校	平成 30 年 2 月 1 日
⑤	小学校	沖縄県	中城村立中城南小学校	平成 30 年 2 月 1 日
⑥	中学校	秋田県	鹿角市立八幡平中学校	平成 30 年 3 月 7 日
⑦	中学校	長野県	信州大学教育学部附属松本中学校	平成 30 年 2 月 23 日
⑧	高等学校	岩手県	岩手県立遠野高等学校	平成 30 年 3 月 2 日
⑨	高等学校	神奈川県	法政大学女子高等学校	平成 30 年 3 月 7 日
⑩	その他	宮城県	NPO 法人かぎかっこ PROJECT	平成 30 年 2 月 5 日

- 調査項目：P.3～P.4 に掲載

現地ヒアリング項目

＜【共通】まず、文献調査で調べた「観光教育」の授業例を呈示して＞

Q1. 貴校における「観光教育」の概要（以下項目等）をお教えください。

SQ1.　　科　目（総合的な学習の時間／それ以外の特定の科目（具体的に　　））

SQ2.　　先　生（専門家の出前授業／学校に所属する先生）

SQ3.　　継続性（単発の取組か／毎年実施している取組か）

SQ4.　　期　間（年間又は特定の学期中に定期的に実施する授業か／不定期の授業か）

SQ5.　　コマ数（1 回あたり何時限授業を行うのか）

SQ6.　　教　材（学校独自に作成したもの／自治体や専門家等が提供したもの）

Q2. 貴校における「観光教育」に関する授業は、どのような目的で行っていますか。

SQ1.　　（非助成）何も呈示せず、相手の回答をうかがう。

SQ2.　　（助　成）次の選択肢のいずれに該当しますか。

＜選択肢＞

1. 観光教育を通じて地域の理解を深め、地域に対する愛着を醸成する
2. 観光教育を通じて、「地理」、「歴史」、「外国語」等の特定の内容を児童が効果的に学ぶ
3. 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
4. 観光教育を通じて、将来観光産業で働く人材を育成する
5. その他（具体的に　　）

Q3. 貴校において、「観光教育」はどのようなきっかけや動機で授業として行われるようになりましたか。

Q4. 貴校において、「観光教育」が導入される際、キーパーソンはいましたか。その方は導入の際、どのような役割を果たしましたか。

Q5. 貴校における「観光教育」の授業内容は、どのように構築しましたか。構築する際、自治体や専門家の協力を得ましたか。

Q6. （教材を独自に作成している場合）貴校における「観光教育」の教材はどのように作成しましたか。

Q7. 貴校で「観光教育」を実施した結果、児童や保護者の評判はいかがですか。（校内の先生が授業をした場合）また、授業を行った先生方はどのような感想をお持ちですか。

＜【分岐】文献調査で調べた観光教育の授業を現在でも実施している場合＞

Q8. 貴校で「観光教育」を継続して実施できている理由は何だと思いますか。

Q9. 小中高等学校で「観光教育」の授業を行う場合、どの科目で行うのがよいと思いますか。

＜【分岐】文献調査で調べた観光教育の授業を現在は実施していない場合＞

Q10.貴校で「観光教育」を現在実施していない理由は何だと思いますか。

Q11.小中高等学校で「観光教育」の授業を行うにはどのような難しさや課題がありますか。

Q12.貴校で「観光教育」を取り入れることになる場合、上記の難しさや課題は、どうすれば解決すると思いますか。

＜【共通】今後、小学校／中学校／高等学校における「観光教育」の普及・促進が検討され、来年度、観光教育を行うモデル校の選定等が行われる予定であることを説明して＞

Q13.「観光教育」に関する取組事例や今後の普及・促進に関しては、どのような情報源で発信するのが良いと思いますか。日頃、教育について情報収集を行っている情報源をお教え下さい。

Q14.来年度、「観光教育」のモデル校を選定することになった場合、貴校は参加を検討しますか。その理由もあわせてお教え下さい。

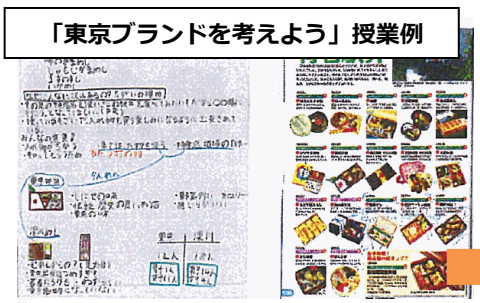
以上

国内事例①　（私立小学校・東京都）「私立成蹊小学校」

- 対　象：小学４年生
- 時　間：「社会科」の単元『わたしたちの東京都』
- 授業実施者：社会科教員（１名）
- 目　的：
  - 観光教育を通じて、「地理」、「歴史」等の特定の内容を児童が効果的に学ぶ
  - 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
- 背景・きっかけ・動機：
  - 日本地理教育研究学会における観光教育研究グループの研究会に、同校教員が参加したことがきっかけ。従前より課題としていた児童の地理的スキル向上に効果があると考え導入した。観光教育を現行の学習指導要領の中で効果的に取り入れていくこと研究を行っている。
- 期　間：１年間（28 時間）
- 内　容：

テーマ	授業内容	時間
「東京都を調べよう」	東京都の地理的概要や都市部・山間部・島嶼部(八丈島)などの地理的条件を活かした人々の暮らしを事例にして学習する。	7 時間
東京ブランドを考えよう １）調べ学習 ２）ポスター作り ３）発表会	東京を代表する駅弁を、1.パッケージ 2.食材 3.商品の販売という観点から考える。 「パッケージ」と「食材」については、個人で調べ、班で調べたことを共有して考えを深めていく。学校の図書室で資料調査を行うことや、街の人へのインタビューを調べるための基本手法とし、「食」、「農業」、「観光」、「地理」などの視点から調べる。	8 時間
「東京都の伝統文化・伝統工芸品」について	「かっぱ橋道具街」について学習し、職人の仕事に対する考え方や生き方に触れる。江戸切子を事例にして伝統文化・工芸品について学習をする。	5 時間
「他地域や世界とつながる東京都」について	東京オリンピック関連も含めて日本の東京、世界の中の東京としての位置付けで学習を進める。また、訪日観光客が東京のどういった場所で観光をしているのか調べ、東京都の魅力について考える。	8 時間

「東京ブランドを考えよう」授業例



全国各地の特徴ある駅弁を紹介しながら、興味関心を高めていった。

「東京駅弁」と「深川めし」を比較して、東京らしい駅弁について考えを深めた。東京のお弁当はどういうものかを考えていく活動も行った。

- 教材・副読本：日本地理教育研究学会の研究成果、既存の副読本（『カリブ観光教本』（(財)国際観光サービスセンター編著、2002 年）等）を参考に、説得力のある教材作成を目指している。
- 継続性：平成 27 年度から単元・テーマを変えながら継続的に実施
- ポイント：

○主体的な取組：子どもたちだけではなく、教員側も楽しんで取組むこと。学習がやらされているのではなく、主体的に取り組むことに意味がある。

○授業を通して地域を理解する：授業を通じて地域を見る（理解する）眼を養うことを心がけている。

○観光教育の目標を設定：観光教育は授業を構築することよりも大事であるが、学習単元や授業の中で、何を学びの目標とするか、といった設定に工夫を要する。学習目標の達成度を測る方法として、授業のノート、テスト、ポスター作成等を実施している。

国内事例②　（市立小学校・京都府）「宇治市立菟道第二小学校」

- ❑ 対　象：小学校６年生の全３クラス
- ❑ 時　間：「総合的な学習の時間」
- ❑ 授業実施者：担任教員（３名）
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光教育を通じて地域の理解を深め、地域に対する愛着を醸成する（※特に重視）
  - ・ 観光教育を通じて、「地理」、「歴史」、「外国語」等の特定の内容を児童が効果的に学ぶ
  - ・ 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ 従来「総合的な学習の時間」では、各校の裁量でそれぞれ異なる取り組みを行っていたが、宇治市共通の副読本ができたことをきっかけに、全市的に「宇治学」を扱うことが決定した。
- ❑ 期　間：１年間（70 時間）
- ❑ 内　容：

時期	テーマ	授業内容
１学期	宇治の魅力を発信しよう（リーフレットづくり）	「自慢」をキーワードに宇治の魅力を調査し（既存資料、インターネット、現地見学、地元事業者等への取材等）、魅力を発信するリーフレットを作成。
２学期	京都市の魅力を探ろう（観光動向調査）	京都市に多くの観光客が訪れる理由を探るため、まずは自分たちで仮説を立て、京都市内の観光地（金閣寺、二条城、竜安寺等）で観光客にインタビュー調査を実施。調査結果を分析し、パワーポイントにて報告資料を作成。
３学期	宇治活性化計画をつくろう（課題解決の提案）	１・２ 学期の活動を通じて見えてきた課題を整理し、具体的な解決策（新しい観光ルート開拓、子どもむけ観光マップ作成等）を検討。専門家や地元の関係者にも話を聞き、宇治茶の魅力を体験できるイベントも開催。最後は解決策を先生や保護者の前で発表し、地元関係者にも報告。

宇治の魅力を調べてリーフレットを作成

京都を調べて調査結果を整理

イベント実施、解決策の発表

- ❑ 教　材・副読本：宇治市作成の副読本『宇治学』を使用。先生は、具体的な進め方が整理されている「指導の手引き」を参考にしながら授業を構築。
- ❑ 継続性：宇治市全体で今年度から試行的にスタートした取組であり、来年度以降も継続予定。
- ❑ ポイント：

○学校外とのつながりを重視：現場を見て、聞いて、知ることが大切。伝え聞いた情報だけでは説得力に欠ける。現地調査や外部協力者に話をしてもらう機会を設けた。

○子どもたちの引き出しを増やす：１ 学期は手書きによるリーフレット、２ 学期はパワーポイントを使ったフィールドワークの報告資料、３ 学期は発表資料をつくる流れにし、人に伝えるためのツールや手法を学んでもらった。

○円滑な引継ぎを支援するツール：これまでの取組内容や関連資料等を閲覧・編集できる教員向けデータ（『宇治学ペディア』）をエクセルで作成。先生が変わっても円滑に引き継ぎができるように配慮。

○役に立っているという実感につなげること：子どもたちの「実感」につなげることが重要。取り組んだことが前に進んでいる、役に立っているといった実感をともなう授業にする。

国内事例③　（市立小学校・福岡県）「うきは市立吉井小学校」

- ❑ 対　象：小学校５年生の全２クラス
- ❑ 時　間：「総合的な学習の時間」
- ❑ 授業実施者：担任教員（２名）＋民間事業者（プログラムづくりや ICT 技術による支援）
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光教育を通じて地域の理解を深め、地域に対する愛着を醸成する
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ 民間事業者がうきは市の ICT 支援（ビーコン端末を使った観光情報発信）に関する業務に取り組んでいた経緯があり、当該事業者の CSR 事業の一環として、吉井小学校における観光教育がスタートした。
- ❑ 期　間：５か月（10 月～2 月）
- ❑ 内　容：

時期	テーマ	授業内容
10 月下旬	観光座学 （フィールドワーク）	うきは市の人口動向や産業、観光に関する統計データ等をもとに、民間事業者が「観光座学」を開催。また、グループに分かれてうきは市内へ出かけ、観光アプリ「おさんぽうきは」を活用して市内の観光資源をめぐり魅力を体感する。
11 月～12 月中旬	現地取材とまとめ （中間報告会）	地域の魅力的な資源を見つけてリストアップし、現地で写真撮影や地元事業者（カフェ、パン屋等）への取材を実施。集めた情報や写真を分かりやすく大きな地図上にまとめて、中間報告会で発表、先生や民間事業者からアドバイスをもらう。
1 月～2 月下旬	観光案内マップづくり （最終発表会）	分かりやすいタイトルや見せ方に気を配り、観光案内マップの仕上げに注力。最終発表会に向けて、発表練習も行う。 発表会では上位３チームが表彰され、観光アプリ「おさんぽうきは」に地元小学生おすすめルートとして掲載される。

観光座学の様子

フィールドワークの様子

最終発表会の様子

完成した観光案内マップ（パンフレットに掲載されたもの）

- ❑ 教　材・副読本：民間事業者がつくるプログラムをもとに、先生が授業を進める
- ❑ 継続性：平成 27 年度から継続的に実施
- ❑ ポイント：

○ICT 技術を活用：観光アプリの活用により成果を世界に向けて発信できることを伝えることで、子どもの興味・関心を引くとともに強い動機づけになった。

○中間報告会の活用：中間報告会として、進捗状況や成果を確認する場を設け、子どもたちの主体性を失くさないように配慮しながら、助言や指導を行った。

○教員の負担軽減：民間企業が関わることで教員の負担軽減につながるとともに、企業と学校の強みを生かした有用な事例となっている。

国内事例④　（市立小学校・沖縄県）「那覇市立銘苅小学校」

- ❑ 対　象：小学校６年生の１クラス
- ❑ 時　間：「総合的な学習の時間」
- ❑ 授業実施者：外部講師（玉川大学寺本教授）＋担任教員ら数名
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光教育を通じて地域の理解を深め、地域に対する愛着を醸成する
  - ・ 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
- ❑ 背景・動機・きっかけ：
  - ・ 同校校長と講師が懇意にしており、講師の提案により、観光教育の出前授業が実現した。
  - ・ 同校では 4 年次において、副読本『沖縄県"めんそ～れ～沖縄観光学習"教材』を使った観光教育の授業を行っており、今回の対象児童も観光教育の受講実績がある。
- ❑ 内　容：

テーマ	授業内容	時間
最新の沖縄県や那覇市の観光を考える	【講義】観光とは何か、観光の重要性、沖縄の観光の現況等を座学で学ぶ 【グループワーク】グループ（1 グループ 5～6 名×6 グループ）にわかれ、おすすめの沖縄の観光プランを作成し、各代表者が発表	第 1 時
ハワイと比べて観た沖縄の強みと弱みを考える	【グループワーク】沖縄とハワイを比較した SWOT 分析（※注）をグループで実施し、各グループの代表者が分析結果を発表。「ハワイ」の特色については、事前学習を実施済み。	第 2 時
自然と調和したホテル建設を考える	【グループワーク】架空の島へのホテル建設を想定したアイデアを各自で構築した後、グループで討議。最終的な一案を作成し、代表者が発表。	第 3 時

第 1 時

観光とは何か、沖縄観光の現状等を説明。

第 2 時

沖縄とハワイを比較し、SWOT 分析を実施し、結果を発表。

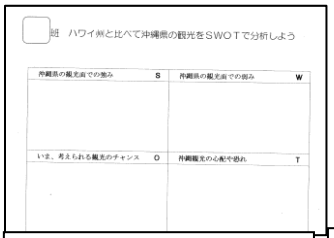
第３時

架空の島を題材に各自がホテル建設プランを作成。

- ❑ 教材・副読本：
  - ・ グループワークでは、以下の教材を外部講師が独自に作成

カードに記載された観光スポットを組み込んだプランを検

SWOT 分析に先立って事前学習したハワイの概要



SWOT 分析の記入用紙

ホテルを建設する架空の島「バード島」

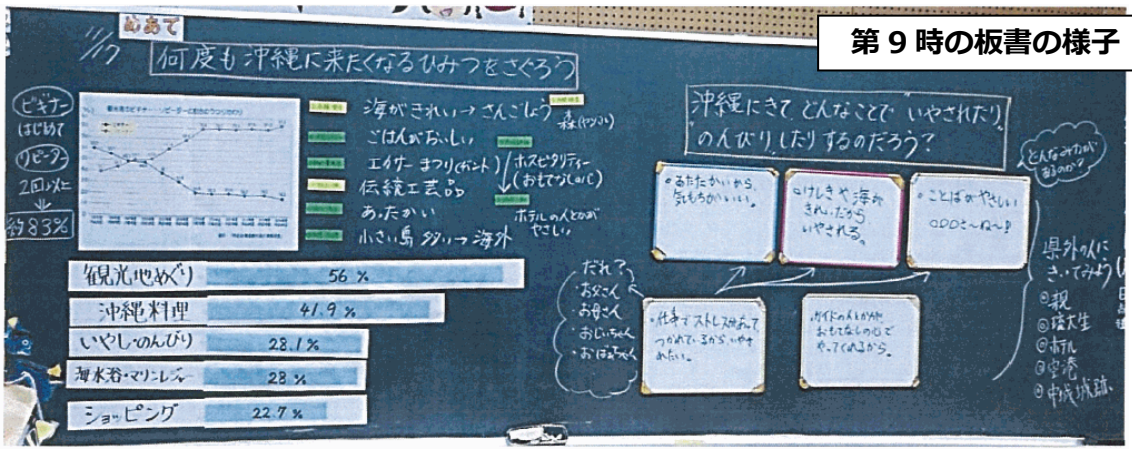
  - ・ 副読本『沖縄県"めんそ～れ～沖縄観光学習"教材 第 11 版』（沖縄県発行、平成 29 年 7 月）
- ❑ 継続性：今回は単発の出前授業であるが、同校では過去にも観光教育を不定期で実施している。
- ❑ ポイント：

○外部講師の活用：観光教育に関する知識や実績を有する外部講師を活用し、最先端の観光教育を子どもたちが体験できた。また、教員も授業の実施方法を学ぶことができた。

○独自教材によるグループワーク：「観光スポットを連想させるカード」や「SWOT 分析」、「架空の島でのホテル開発の検討様式」等のオリジナル教材を活用したグループワークを実施した。※注：SWOT 分析とは、自身と競合相手の「強み」・「弱み」と「機会」・「脅威」を分析する手法のこと。

国内事例⑤　（村立小学校・沖縄県）「中城村立中城南小学校」

- ❑ 対　象：小学校４年生
- ❑ 時　間：「社会科」＋「総合的な学習の時間」
  （単元名：「めんそーれー沖縄県　私たちの県のよさ」（私たちの沖縄）、18 時間）
- ❑ 授業実施者：社会科教員（1 名）
- ❑ 目　的：
  - ・ 見学や体験、資料活躍などを通じて豊かな伝統・文化や自然を生かしたまちづくりが、観光の盛んな沖縄県の魅力を高めていることを知る。
  - ・ 沖縄県の観光が盛んであることの意味を追及するために、観光目的である「保養・休養」に着目させ、その背景について仲間と吟味し合い、自県の良さに関する見方・考え方を更新する。
- ❑ 内　容：



第 9 時の板書の様子

テーマ	授業内容	時間
沖縄を理解する	地図の中で沖縄県の場所について考えさせる	第 1 時
沖縄の観光客が増えている理由を考える	「なぜ、観光客は沖縄に来るのか？」を観光客推移のグラフから推測させる	第 2 時
	沖縄の魅力「自然」について調べたことを仲間と話し合う	第 3 時
	沖縄の魅力「文化（伝統工芸品・祭り・行事）」について調べたことを仲間と話し合う	第 4～5 時
	沖縄の魅力「文化（伝統芸能）」について調べたことを仲間と話し合う	第 6 時
	沖縄の魅力「沖縄料理」について調べたことを仲間と話し合う	第 7 時
	観光客におもてなしをする人達の魅力について考える	第 8 時
	沖縄県を訪れる観光客の７割をリピーター客が占めている事実を知り、リピーター客の観光目的である「保養・休養」に着目させ、その背景について仲間と話し合う	第 9 時
	なぜ、沖縄が「癒し」「のんびり」で 3 位なのかその理由を調べる	第 10～11 時
	調べたことを共有しこれまで気がついていなかった沖縄の価値について話し合う	第 12 時
琉球螺鈿を題材に中城村の魅力等を考える	地元である中城村の良さについて考える	第 13～14 時
	沖縄で唯一の琉球螺鈿の継承者に着目し、琉球螺鈿が伝統工芸品であることやその価値について考える	第 15～16 時
	琉球螺鈿の価値を地域の人や観光客に発信する	第 17～18 時

- ❑ 教材・副読本：『沖縄県"めんそ～れ～沖縄観光学習"教材 第 11 版』（沖縄県発行、平成 29 年 7 月）
- ❑ 継続性：平成 28 年度に 1 年間実施、平成 29 年度は教員間での引き継ぎを検討。
- ❑ ポイント：

○自県の良さを学ぶ：沖縄県の伝統・文化や自然を生かしたまちづくりが、観光資源としての魅力を高めていることを知るとともに、沖縄県の良さに関する見方・考え方を拡げている。

○充実した副読本の活用：沖縄県では副読本が定期的に更新されているため、観光教育の授業内容や教材を作成する際、最新の統計データ等を活用することができる。

国内事例⑥　（市立中学校・秋田県）「鹿角市立八幡平中学校」

- ❑ 対　象：全校生徒（約１００名）
- ❑ 時　間：「総合的な学習の時間」
- ❑ 授業実施者：全教員が取組に参加（約 15 名）
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光教育を通じて地域への理解を深め、地域に対する愛着を醸成する
  - ・ 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
  - ・ その他（愛着をもって、将来、地元で働く人材を育成する）
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ 秋田県は人口減少が著しく、子ども達にふるさとの良い面を理解してもらい、ふるさとに残る子どもや戻ってくる子どもを増やすため、「ふるさとキャリア教育」を行っており、その一環として、平成 22 年に市内で初めて中学生によるボランティアガイドの取組が始まった。その効果を受けて、平成 24 年に八幡平中学校も取組を開始した。
- ❑ 内　容：

時期	テーマ	授業内容等
6 月	ふるさとを学ぶ	ガイダンスで説明
6 月	準備活動/校内	校内に仮想ポイントを設置し、ガイドの練習
7 月	準備活動/現地	「八幡平外来種駆除活動」に参加し、現地練習
9 月	準備活動/校内	八幡平小学校の 6 年生を対象に、校内の仮想ポイントでガイドの練習
10 月	準備活動/現地直前	山の案内人の助言
	ガイドの実践（土日）	タブレットや写真等を使用
	活動報告会	学校報による広報

「後生掛」と「大沼」の 2 コース。
各 6 箇所の案内ポイントで説明。

中学生が地元・八幡平をガイド

タブレットで説明

片言の英語で外国人にも対応

- ❑ 教　材・副読本：
  - ・ 学校独自に作成したマニュアルをベースにガイド内容を生徒が検討する。ガイドマニュアルは主に理科の教員が中心となり作成、地域の専門家等の助言も受けた。マンネリ化を防ぐため、毎年内容を改定している。
- ❑ 継続性：平成 24 年度から継続的に実施。
  （当初は 3 年生対象で実施。徐々に対象学年を拡大し、平成 26 年度から全校生徒で実施。）
- ❑ ポイント：

○縦割りでリーダー性を学ぶ：全校生徒が参加し、各学年の生徒を 24 グループに分け、1～3 年生が混合でボランティアガイドに取組む。部活動や生徒会活動以外にも、ボランティアガイドの縦割り活動を通じて、特に 3 年生にはリーダー性が身に付く。

○ガイドを通じた地域への愛着の醸成：ボランティアガイドは八幡平国立公園内の後生掛、大沼の 2 コースを案内する内容となっている。各コースで 12 グループずつがボランティアガイドとして活動する。後生掛は火山地帯で火山活動のガイドがメイン、大沼は紅葉がキレイなので植生のガイドがメイン。生徒は 3 年間で両方の地域を担当する。近年は外国人観光客も増加しており、中国語の挨拶程度の外国語対応を行っている。平成 30 年度は英語も使ったガイドに挑戦する予定。

○役に立っているという実感につなげること：観光客からのお礼の手紙が来る等、生徒にとっては大きな喜びがあり、役に立っているという実感につながっている。

○地域で一体となった取組へ：教員、環境省、秋田県、鹿角市、地域の山岳部、保護者など、地域の関係者が連携して一体的な取組となっている。これまで保護者はボランティアとして有志が参加していたが、平成 30 年度からは PTA 活動の一環として行うことになった。

国内事例⑦　　（国立中学校・長野県）「信州大学教育学部附属松本中学校」

- ❑ 対　象：中学１～３年生（１クラス）
- ❑ 時　間：「総合的な学習の時間」
- ❑ 授業実施者：学級担任・副担任（２名）
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
  - ・ （自己表現力、課題探究力、社会参画力の３つを「目指す生徒の姿」として設定）
- ❑ 背景・きっかけ・動機：

  同校では「総合的な学習の時間」において、クラス毎に１つのテーマを３年間通して取り組む制度となっている。（クラス替えは行われない。）浅間温泉の活性化というテーマは、上の代の取り組みを引き継いだものであり、クラス内での議論を経て決定された。
- ❑ 期　間：３年間（105 時間／年）の実施予定
- ❑ 内　容：※2 年途中までの取組

時間	テーマ	授業内容
１学年	浅間温泉を知ろう！ 浅間温泉に関わろう！	浅間温泉を知り、関わりを持つために、手しごと市、クリーン作戦、松本城での PR、新そば祭り、旅館での職業体験等に参加し、浅間温泉や浅間温泉で行われているイベント等を体験。
２学年	自分たちの力で 浅間温泉を活性化させよう！	温泉街の活性化に向けて自分達でできることは何かを考え、信州大学受験のため浅間温泉に宿泊する受験生を応援するための「餅つき応援会」を企画・運営。その他、地域からお誘いのあった「ツールド美ヶ原」やトレッキングツアー、植樹祭等にも参加。文化祭の学級展示では、浅間温泉のお湯を使った足湯プロジェクトを実施。 また、上記の取り組みの有効性について、旅館等へのインタビューを行い、見直しを図り、新たに里山の再生プロジェクトも始動。
３学年	活動をまとめ，振り返ろう！（予定）	トレッキングコースの整備や、活用を求めている多くの旅館施設のニーズを踏まえ、里山の整備や PR に取り組む。 これまでの３年間の活動を振り返り，学びの足跡をまとめる。（予定）

夏休み　クリーン作戦

旅館での職業体験

松本城での PR 活動

新そば祭り

受験生餅つき応援会

足湯プロジェクト

活動を見直し、新たな取組へ

- ❑ 教　材・副読本：特になし
- ❑ 継続性：平成 28 年度から継続的に実施。
- ❑ ポイント：

○自分たちで活動を立ち上げる：浅間温泉のイベントに参加するだけではなく，活性化を図るためには何に取り組めばよいのか、旅館の方へのアンケート調査や、実際に里山に複数回通い、自分自身のからだで味わってきた魅力を根拠として活動を決め出した。自分たちで活動を立ち上げたことで、より主体的な活動になった。

○他教科との連関：社会の統計データ、美術の木材加工、国語で学んだキャッチコピー等、他の教科で学んだスキルや経験を総動員して課題解決を図ることで、より大きな成果を上げ、各教科を学ぶ意味を感じることができた。

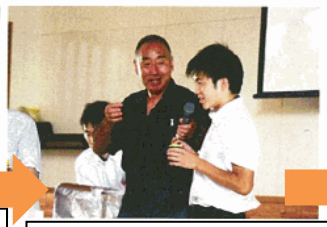
○地域との関係構築：生徒は足繁く浅間温泉に通ったことで、地域の一員として認識してもらい、温泉関係者との良好な関係ができた。また、教員は積極的に浅間温泉地域の事業者の若手が集まる会議へ参加し、意見交換を通して関係構築に努めた。

国内事例⑧　（県立高等学校・岩手県）「岩手県立遠野高等学校」

- ❑ 対　象：高校 1～2 年生の全クラス、３年生は下記の第 1 ステップのみ参加
- ❑ 時　間：「総合的な学習の時間」
- ❑ 授業実施者：外部講師（団体・企業からの派遣）と教員の協働
- ❑ 目　的：
  - ・ 地域に対する愛着を醸成する
  - ・ 「地理」、「歴史」、「外国語」等の特定の内容を生徒が効果的に学ぶ
  - ・ 地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
  - ・ 将来観光産業で働く人材を育成する
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ 「日本の永遠のふるさと」を標榜する遠野市にあり、「遠野郷の子どもは遠野で育てる」をモットーとする同校は、グローバルな視点に立って地域を認識し、課題を解決する人材の育成を目指している。本授業は、同校の方針に沿ったキャリア教育の一環として実施している。
- ❑ 期　間：１年間（週 1 単位の時間を 2 週分まとめて 2 コマ連続して実施）
- ❑ 内　容：

時期	テーマ	授業内容
1 学期	「遠野」を知る	・ 外部講師による講義。「遠野の歴史と文化」、「遠野市政」、「遠野で活動する」 ➢ 基本的な知識、情報の獲得、「言語リテラシー」→聞く力、書く（まとめる）力の育成
2 学期	課題を探る	・ 外部団体と連携したディスカッションやワークショップ、フィールドワークによる課題の発見。 ➢ 問題意識を持つ ➢ 言語コミュニケーションによる「人間関係形成能力」の育成
	課題解決を探る	・ 外部団体とともに課題ごとの解決策を考える。 ➢ ネットリテラシーの力を高める ➢ 企画発想力を高める
3 学期	まとめ	・ 具体的な解決策を検討し、まとめる。 ➢ 論理的思考の養成 ➢ ディベートの基礎力身につける
	発表	・ 校内外で課題解決策を発表する。 ➢ 説明する力を身につける ➢ パワーポイント作成のスキルの習得、プレゼンの基礎力を身につける

開校式。遠野市長による基調講演



外部団体（例：多田自然農場）による講演会の開催

フィールドワークの実施（例：ホップ畑）

ディスカッションの様子（例：発酵と街と私）

- ❑ 教　材：外部講師が作成
- ❑ 継続性：今年度からスタートした取組であるが、来年度以降も実施予定。
- ❑ ポイント：

○学習だけに留まらない実践的な学び：地域が抱える課題について、解決策を考えるだけでなく、実際的なアウトプットを目指す。

○関係者との合意形成：市役所や外部団体・企業との合意形成にあたっては、市長や副市長、各担当部署それぞれに説明を行った。

○外部の大人との関わり：外部の大人からの指導を受けることで、生徒にとっては大きな刺激となり、人材育成の面で非常に効果が高い。

国内事例⑨　（私立高等学校・神奈川県）「法政大学女子高等学校　※注」

※注：平成 30 年３月当時の名称。平成 30 年４月より「法政大学国際高等学校」へ名称変更。

- ❑ 対　象：高校３年生の選択授業（約 20 名）
- ❑ 時　間：「特別講座」旅する人の観光学
- ❑ 授業実施者：担当教員（１名）＋外部講師
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光を学ぶことを通じて、社会の様々な事象への関心を高める。
  - ・ その他（レポート作成指導に力を入れ、高等学校と大学の連携を強く意識している。）
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ 様々な専門性を有する教員が授業を行う同校の「特別講座」を活用し開講。大学院にて観光学を学んだ担当教員が授業を立ち上げ、担当している。
- ❑ 期　間：1～2 学期（週２コマの連続授業）
- ❑ 内　容：

時期	テーマ	授業内容
1 学期	講義	観光学の入門と、夏休み前の研究旅行で講義内容を検証できるもの、班行動のプラン作りに応用できるものを中心に実施。
	校外研究	都内にある各都道府県のアンテナショップ巡りを実施。
	研究旅行	1 学期の期末試験終了後、3 泊 4 日の日程で実施。2015 年度の研究旅行の行程は以下のとおり。 <1 日目～2 日目：神戸市のまちづくり、観光施設の運営について巡検> 神戸市と横浜市を対比させながら、神戸の観光地としての特色を検証する。須磨海浜水族園では、施設の特徴をいかした活性化について学ぶ。 <3 日目：班行動による観光プランの検証> 京都市において旅行会社の社員が観光プランを作成する設定で、生徒が自分達で事前に作成したプランに沿って行動し、プランの検証を行う。自分達が楽しむためではなく、他社他者を楽しませることを目的とし、観光地に対する多角的な視点を養う。 <4 日目：観光地での問題をテーマとした現地での意見交換> 京都市の景観論争テーマとし、京都の市街地で巡検し、生徒間で意見交換を行う。地域の課題を題材に議論を通じて、地域社会への関心を高める。
2 学期	講義	レポート作成に向けてそのヒントとなるように、観光に関する最新の動向や身近な地域での観光について取り上げる。
	校外研究	講義内容を検証できる訪問先を設定。近年はまちづくりを講義内容に取り入れているため、その現場を訪れることが多い。
	レポート作成	レポート作成は本講座の中心ともいえる学習活動であり、4 月当初から取り組み始めて、11 月末に完成するようにスケジュールを組んでいる。

講　義
（例:東京御蔵島エコツーリズ

都内アンテナショップ巡り
（例：宮崎県）

研究旅行（例：京都東山の重要伝統的建造物等を散策）

レポート作成を支援する学内オリジナル観光新聞

- ❑ 教　材・副読本：同校教員が独自に作成。
- ❑ 継続性：平成 16 年度から継続的に実施。
- ❑ ポイント：

○学校外での学びを重視：日帰りの郊外研究および宿泊を伴う研究旅行、アンテナショップ巡りによって、地域をアピールする試み等について学ぶことが特徴的な活動の１つ。短時間で複数のアンテナショップをめぐることで各都道府県の地域性や観光政策を学ぶことができる。研究旅行では、旅行会社の社員の設定で他者のための観光プランを作成し、実際に自分達で旅行して検証する。

○学校外の人との出会いを演出：生徒はアンテナショップの運営に関する知識を得るとともに、郷土愛があり熱心に取り組む職員に感動する。研究旅行では観光施設のスタッフから案内いただく。

○大学との連携を意識：同校の観光教育の特徴は、高等学校と大学の連携を強く意識している点である。観光を通して、社会と関わるための素養を身につけることに主眼を置くとともに、大学を意識したレポート作成を年間課題として位置づけている。

国内事例⑩　（その他・宮城県）「いしのまきカフェ「」（かぎかっこ）」・「高校生百貨店」

- ❑ 対　象：石巻市内の高校生（有志）
- ❑ 時　間：課外活動
- ❑ 運　営：NPO 法人かぎかっこ PROJECT、地域事業者 等
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光教育を通じて地域の理解を深め、地域に対する愛着を醸成する
  - ・ 観光教育を通じて、地域の社会課題について考え、解決する能力を育成する
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ 民間企業の被災地支援を目的とした寄付活用の一環として実施。東日本大震災以降、若者たちが進学や就職で石巻を離れていく現状の中、高校生世代が地域とのつながりを持ち、生きがい・働きがいを考え、様々な課題を自分ごととして捉え、取り組む力を育むことを目的としている。
- ❑ 内　容：

時期	活動名	取組内容
平成 24 年 ６月～現在	いしのまきカフェ 「」（かぎかっこ）	・４０名の高校生とともにスタート。 ・「商品開発」「空間デザイン」「情報発信」の３チームに分かれ、地元企業や生産者、専門家と連携しながら活動。 ・商品開発では、生産者の元へ足を運び、ヒアリングし体感したものを元に商品を具現化するプロセスを踏む等、生徒の体験から生まれるものを大切にしている。 ・各種取り組みは高校生主体で進められ、必要なファシリテーションを大人や地域が支える。まちを元気にする場所として、地産地消や人とのつながりを大切にしながら、現在もカフェづくりを続けている。
平成 27 年 ～現在	高校生百貨店	・プロのバイヤーからレクチャーを受けながら、地元の生産者や製造者の話を聞き、光る商品を発掘して、百貨店における PR 販売等（販路開拓）につなげていく活動。 ・生産者の「想い」を消費者に届けるために、商品について生産者へのインタビューや、プロによる販売レクチャーなど販売に向けての準備を８回のワークショップの中で進めていく。商品は実際に百貨店で高校生が販売する。

- ❑ 教　材・副読本：特になし
- ❑ 継 続 性：平成２４年６月から継続的に実施。
- ❑ ポイント：

○高校生の主体性を地域で支える：高校生の考えやアイデアを大切にしながら、それらを実現に結びつけるために、農家、漁師、料理研究家、水産加工会社、建築家、陶芸家、ホテルマンなど、様々な業種のプロとつながりながら、カフェづくりを実践。

○ビジネス的な視点で学べる：メニュー開発からカフェでの販売まで、また、地元の商品開発から販路開拓までと、ビジネスとして地域活性化や観光振興を考える教育プログラムを構築。

○高校生同士の交流促進：他校の高校生同士の交流が生まれ、普段の学校生活では体験できない繋がりや、地域への愛着や誇りも醸成されている。

2. 国内先進事例の効果検証

10 件の国内先進事例について、観光教育の取組による効果を分析し、観光教育による効果を下表のように整理した。

効果	効果の具体的な内容
地域の理解向上や地域への愛着心の向上	地元の自然、文化、歴史、食等の魅力を理解する
	・ 観光アプリを活用して市内の観光資源をめぐることにより、児童がうきは市内の魅力を体感した。【事例③うきは市立吉井小学校】 ・ 観光プランの検討やハワイとの比較を通じ、沖縄の良さ、沖縄の観光の魅力を児童が理解。【事例④那覇市立銘苅小学校】 ・ 授業を通じ、自然、文化、歴史、食べ物等の見えやすい沖縄の良さを理解するとともに、沖縄の人の魅力、癒し、のんびり出来ることなどの見えにくい魅力にも児童が気付くことが出来た。【事例⑤中城村立中城南小学校】 ・ 調べ学習や事前の現地訪問を通じて、ふるさとのことを良く知れた。【事例⑥鹿角市立八幡平中学校】
	地域への愛着が向上する
	・ 児童が宇治の自慢と言える魅力を実感することにより、児童の宇治への愛着が醸成された。【事例②宇治市立菟道第二小学校】
観光への興味・関心の向上	観光地への興味・関心の向上
	・ 授業を通じて得た知識やスキルを活用して、家族旅行等で訪れる地域への興味関心が高まったということが効果としてはある。【事例①私立成蹊小学校】 ・ 観光とは何か、観光の重要性について児童の理解が向上した。【事例④那覇市立銘苅小学校】
教科（社会科、外国語等）の学習効果	教科（「社会科」、「外国語」等）の学習効果
	・ 社会の統計データ、美術の木材加工、国語で学んだキャッチコピー等、他の教科で学んだスキルや経験を総動員して課題解決を図ることで、より大きな成果を上げ、各教科を学ぶ意味を感じることができた。【事例⑦信州大学教育学部附属松本中学校】
課題解決能力の向上や地域への参画意識の向上	地域における課題解決の経験の蓄積
	・ ハワイとの SWOT 分析やホテル建設プランの作成を通じ、地域における社会課題の解決を模擬的に経験することが出来た。【事例④那覇市立銘苅小学校】
	地域への参画意識の向上
	・ 市役所や外部団体・企業との合意形成にあたっては、市長や副市長、各担当部署それぞれに説明を行った。【事例⑧岩手県立遠野高等学校】
観光産業の労働経験の蓄積やスキルの習得	観光産業での就業経験の蓄積
	・ 保護者から「社会人１年目の経験をさせてもらっている」という声をもらっている。【事例⑦信州大学教育学部附属松本中学校】
	コミュニケーション能力等の向上
	・ 見ず知らずの観光客にガイドをするため、表現力やコミュニケーション能力の向上、社会性が身に付くなどの効果がある。【事例⑥鹿角市立八幡平中学校】
	リーダーシップの向上
	・ 高校生によるカフェ運営の活動が発展し、将来石巻のリーダー的な人材になるようにアントレプレナー的なより高度な人材育成のプログラムへシフトした。【事例⑩NPO 法人カギカッコ PROJECT】
観光産業への就業意欲の向上	観光分野への進学、観光産業への就業
	・ 過去に本講座の受講をきっかけに、レポート作成の中で関連する学術分野に関心をもち進路選択した生徒や、観光学に強い関心を持ち学び続けることを希望する生徒が一定数いた。また、本講座の受講をきっかけに、旅行会社に就職した生徒もいた。【事例⑨法政大学女子高等学校】 ・ カフェ運営に参画した高校生の中で、高等学校卒業後、NPO 法人カギカッコ PROCJETC の運営側に回って、カフェの経営に参画した生徒がいた。また、高校卒業後、観光マーケティングに関わる仕事に就職を希望する生徒が現れている。【事例⑩NPO 法人かぎかっこ PROJECT】
（波及効果）他の学校や地域への観光教育の普及・連携	他の学校への横展開
	・ 同校の取組が同じ市内の中学校へと横展開した実績がある。【事例⑥鹿角市立八幡平中学校】

前頁の結果から考察すると、直接的に観光産業への就業につながるような「観光産業への就業意欲の向上」や「観光産業の労働経験の蓄積やスキルの習得」は、高等学校、あるいは中学校～高等学校で行われている観光教育の効果としてみられる。

一方で、小学校で行われる観光教育においては、児童・生徒の能力開発が主目的でありながら、将来の観光産業への就業の基礎となる「地域の理解向上や地域への愛着心の向上」、「観光への興味・関心の向上」といった効果がみられる。

さらに、「課題解決能力の向上や地域への参画意識向上」については、小学校～高等学校の全てにおいて得られるものであり、観光教育における中核的な効果であると言えよう。

3. 海外先進事例の調査・収集・整理

海外の先進事例として、以下の３件の事例について調査を行い、情報を収集・整理した。

STEP1
- 文献、メディア、インターネットを活用した事例収集
- 専門家ヒアリングによる候補の妥当性確認、新たな事例の紹介

STEP2
- 海外調査に特化した人材ネットワークを活用した海外先進事例の情報収集

STEP3
- 事例集としてのとりまとめ
- モデル授業構築に反映できる要素の抽出

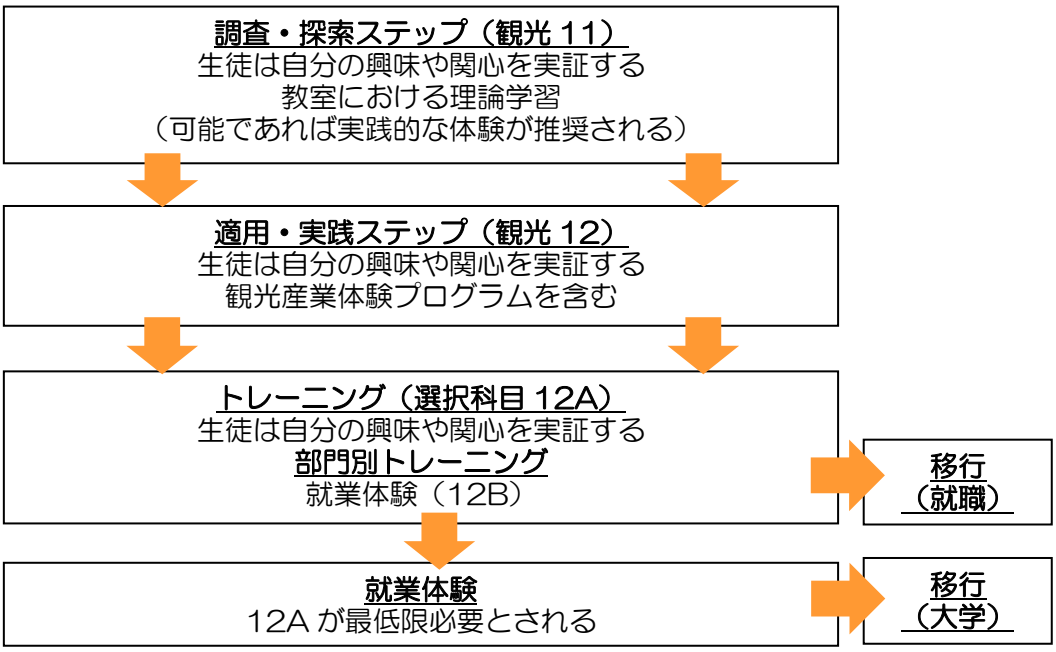
- 調査方法：文献調査及びヒアリング調査（電話等）
- 調査時期：平成 30 年１月～3 月
- 調査対象：

No	国・地域	取組名
①	カナダ	ブリティッシュコロンビア州における高校生を対象とした観光教育
②	スイス	スイス・ツェルマットにおける高校生を対象とした自然体験学習
③	ニュージーランド	ニュージーランドにおける高校生を対象とした観光産業の就業体験

海外事例①　　カナダ・ブリティッシュコロンビア州における高校生を対象とした観光教育

- ❑ 対　象：ブリティッシュコロンビア州内の高校生
- ❑ 科　目：観光教育プログラム「観光 11」（高校２年生）、「観光 12」（高校３年生）
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ カナダでは、教育制度は州ごとに定められている。通年リゾートとして人気のある「ウィスラー・ブラッコム」をはじめとする世界的な観光地が所在するブリティッシュ・コロンビア州では、観光産業の５つの分野（宿泊、レクリエーション及びエンターテイメント、飲食業、旅行サービス、交通）において質の高い人材の不足が課題となっている。高等学校からの人材供給はその解決策の一つとして、観光教育プログラムを生徒が受講することにより、観光分野の大学への進学や産業への就職が期待される。
- ❑ 目　的：生徒が高等学校から観光産業に就職するのを支援すること。
- ❑ 期　間：高校２年生「観光 11」、高校３年生「観光 12」で、各 100 時間
- ❑ 内　容：

ステップ	授業内容
調査・探索ステップ	観光分野における根幹を形成するのに重要なステップで、最初は自身を観光の専門家ではないと認識している多くの生徒に対し、観光分野における職業形成へ向かうことを支援する。
適用・実践ステップ	適用・実践ステップでは、理論的な学習と実践的な体験の両方を含む。
トレーニングステップ	出来るだけ多くの職業体験を積むことが生徒にとって有益である。



高校２年生「観光 11」のカリキュラム	高校３年生「観光 12」のカリキュラム
観光への導入	旅行計画
観光の専門家として前向きな態度	観光の運営
観光の専門家の実践的な技術	観光ビジネス
観光産業における成功のための準備	観光産業体験

- ❑ ポイント：

○州内の全高校生を対象としたプログラム化：ブリティッシュコロンビア州内の高校生が選択可能なプログラムとして構築されている。

○観光産業への人材供給に直結したプログラム：高校卒業時の観光産業への就業を促すことを目的の一つとしており、観光産業への人材教育に直結したプログラムとなっている。

海外事例②　　スイス・ツェルマットにおける高校生を対象とした自然体験学習

- ❑ 対象：「スイス・セメスター」が企画・運営する学期性の留学プログラムへ応募した高校生。
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ スイスでは、観光産業が古くから国内の主要産業の一つであり、大学や専門学校等の高等教育における観光・ホスピタリティ教育の制度がしっかりと構築され、観光産業への就業に役立つ教育機関や留学制度等も充実している。観光・ホスピタリティを学ぶ上で世界的に著名な学校も所在している。また、高等教育だけではなく、民間団体や地域コミュニティーにおいても、小学校～高等学校に相当する児童・生徒に対する観光教育が長く実践されている。
- ❑ 目的：
  - ・ スイスのツェルマットの恵まれた自然環境を活かした野外活動を通じて、冒険心や挑戦心を身に付けるとともに、語学や地理・地質学を学ぶ。
- ❑ 内容：
  - ・ 1986 年から続く教育プログラムで、ツェルマットで 1 学期の間（スイスは 1 学期：8 月～1 月、2 学期：2 月～7 月の 2 学期制）、宿泊型で高校生を対象とした教育を実施する。
  - ・ 米国等から約 40 名の生徒が参加し、10 名以上の教員が以下の科目を指導。ツェルマットの 4 つ星ホテル内にある教室等を利用して授業が行われるが、周辺の自然環境の中での屋外活動に加え、プログラムの中で、周辺国のイタリアとフランスへの旅行も実施される。

科目	授業内容
数学	3～5 名の生徒で学習する。
外国語	生徒により、フランス語又はスペイン語を学ぶ。
英語	観光に関連する読み書きに重点を置いた高校 2 年生レベルの標準的な英語を学習する。
芸術・歴史	プログラムを通じて直接芸術作品に触れる。
地理・地質学	ツェルマットの地形を生かし、大学における地理・地質学に似たような内容を学べる。
時事問題	毎週世界のヘッドラインニュースについてディスカッションを行う。

標準的な授業スケジュール

07:50-08:00　朝のミーティング
08:00-11:20　授業（4 コマ）
11:20-16:30　山でのアウトドア活動
　　（クライミング、ハイキング、地質学学習、スキー）
16:30-18:10　授業（2 コマ）
18:15-19:10　夕食
19:20-21:45　夜のミーティング又は自習
22:15　　就寝

野外でのアウトドア活動の様子

巨大な氷河等の現地の自然を題材とする

イタリア・フランスへの教育旅行を実施

- ❑ ポイント：

〇地域外からの参加者を受入：アメリカ等の海外・地域外から高校生を受け入れている教育プログラムとなっている。

〇地域の資源を活用した体験プログラムの提供：山でのクライミング、ハイキング、地理・地質学を学ぶ体験プログラムについて、ツェルマットの恵まれた自然環境を活用し、楽しみながら学ぶことが出来るプログラムとなっている。

海外事例③　ニュージーランドにおける高校生を対象とした観光産業の就業体験

- ❑ 対　象：高校生
- ❑ 背景・きっかけ・動機：
  - ・ ニュージーランドでは、観光産業を国内の主要産業に位置付け、国を挙げて観光教育が奨励されており、ニュージーランド教育省（Ministry of Education）により、観光教育のプログラムが取り入れられている。また、観光・ホスピタリティを学べる専門学校が充実しており、大学生や専門学校生以上を対象とした高等教育としてだけではなく、高校生を対象とした観光教育の取組がみられる。
- ❑ 目　的：
  - ・ 観光業界全般の専門学校である「ニュージーランド国際旅行学校（ITC）」では、毎年、15 歳～17 歳の高校生を対象に、ニュージーランド航空、旅行と観光産業に関する短期コースを開催している。
  - ・ この短期コースの開催目的は、高校生に観光産業で働くことがどのようなものかを理解させ、学校卒業後に何を学ぶべきか決断するのに役立つ情報を提供することである。
- ❑ 内　容：
  - ・ ITC はニュージーランド全国で高校生を対象とした短期コースを 12 回開催し、1,000 人以上の高校生が受講した。また、ITC は、学校と観光産業の関係者の間のネットワーク構築を支援した。
  - ・ 高校生を対象とした短期コースの 2016 年の開催予定、開催内容等は以下のとおり。

開催内容	授業内容	時間
観光短期コース／レベル 2 観光テイスター短期コース	ITC の経験豊富なチューターが高等学校又は希望する場所を訪問し、航空会社、旅行及び観光産業に関する出前授業（講義）を行う。	各 2 日間を基本とする
フライトアテンダント短期コース	ニュージーランド航空の協力等により、フライトアテンダントの就業体験を行う。実際の航空機の設備を使ったフライトシミュレーションに参加し、フライトアテンダントの業務がどのようなものかを学ぶ。	各２日間
ツアーガイド短期コース	ガイドツアーに参加してツアーを実際に体験しながら、ツアーガイドの働き方を学ぶ。	各２日間
アドベンチャー短期コース	クジラ・イルカウォッチングツアー等のアドベンチャープログラムを実際に体験しながら、働き方を学ぶ。	各２日間

観光産業の職場体験

アドベンチャープログラムの体験

フライトアテンダント体験

- ❑ ポイント：

○ニュージーランド全国で開催：ニュージーランドの中心部であるオークランド等での開催だけではなく、上記表のとおり、ニュージーランドの各地で観光教育の短期コースを開催している。

○観光教育・ホスピタリティ教育の専門学校による開催：観光業界全体の専門学校が主催し、ニュージーランド航空と連携する等、観光産業への就業に向けた意識の向上等を目的として実施している観光教育プログラムである。

4. 海外先進事例の効果検証

観光教育の海外の先進事例について、効果を検証し、以下のとおり整理した。

効果	効果の具体的な内容
観光への興味・関心の向上	観光地への興味・関心の向上
	・ 観光産業に関心を持つ高校生を増やすことを目的とし、ニュージーランド全国で開催している。【事例③ニュージーランドにおける高校生を対象とした観光教育】
観光産業の労働経験の蓄積やスキルの習得	観光に関する語学等の習得
	・ ツェルマットの自然環境とアクティビティ体験を通じた観光に関する語学習得と地理・地質学の学習。【事例②スイス・ツェルマットにおける高校生を対象とした自然体験学習】
観光産業への就業意欲の向上	観光分野への進学、観光産業への就業
	・ 観光産業へ就業、あるいは観光について大学で学ぶ生徒の直接的な増加を見込んでいる。【事例①カナダ・ブリティッシュコロンビア州における高校生を対象とした観光教育】

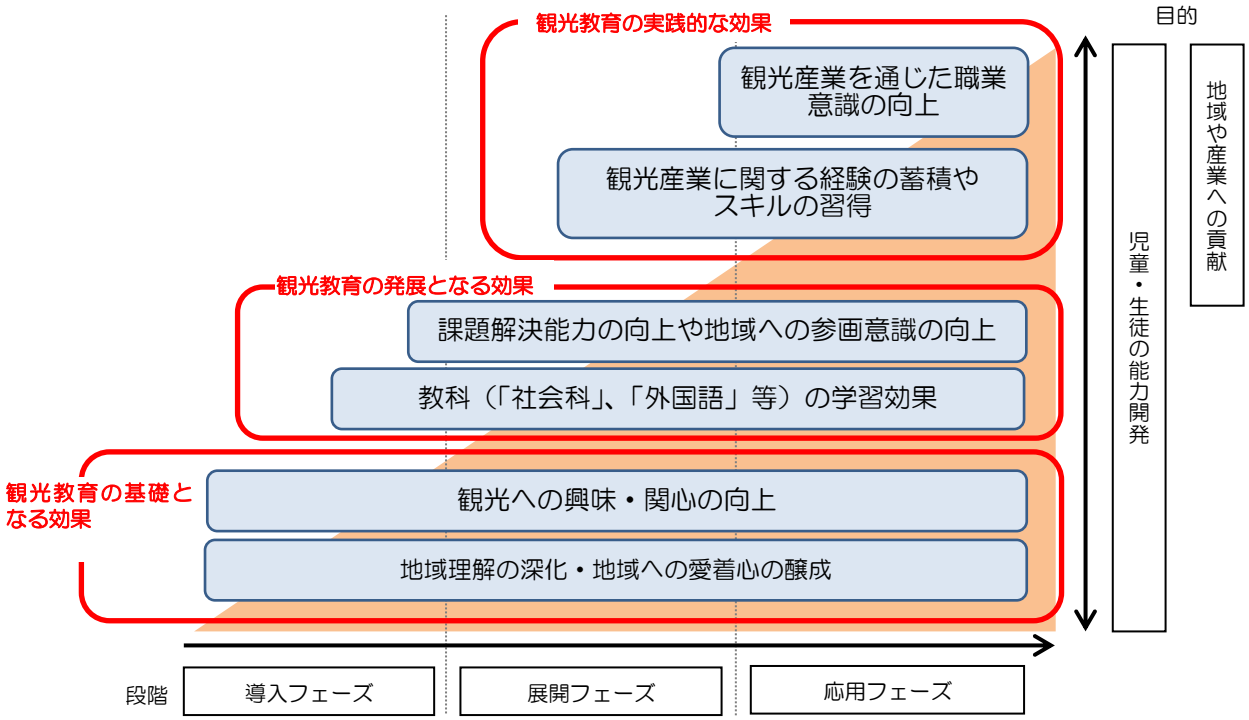
海外の先進事例については、対象とした国・地域がいずれも観光先進国であり、観光産業が国内で重要な産業という認識が浸透し、観光産業への就業を目的とした実践的な効果をねらった観光教育の取組が行われている。

5. 観光教育のモデル授業構築

（1） 観光教育の段階と効果

前章までに取り上げた国内外における観光教育の取り組みを踏まえ、観光教育の効果について、教育段階（(「導入」→「展開」→「応用」のステップ）と、目的成果（「地域や産業への貢献」、「児童・生徒の能力開発」）の２つの軸を用い、下図のとおり整理した。

観光教育の基礎となる効果である「地域の理解向上や地域への愛着心の向上」、「観光への興味・関心の向上」から、中核となる効果である「教科（「社会科」、「外国語」等）の学習効果」、「課題解決能力の向上や地域への参画意識の向上」を経て、より実践的な「観光産業の労働経験の蓄積やスキルの習得」、「観光産業への就業意欲の向上」へと段階的にステップアップしていく構造となっている。



- ❑ **地域理解の深化・地域への愛着心の醸成**
  - ➢ 観光教育で地域を題材として学ぶことを通じて、児童や生徒が地域の魅力について理解するとともに、地域への愛着心が向上することが期待される。
- ❑ **観光への興味・関心の向上**
  - ➢ 児童や生徒が観光の重要性を理解し、観光への興味や関心が向上することが期待される。
- ❑ **「社会科」、「外国語」等の教科の学習効果**
  - ➢ 観光教育を題材とすることにより、歴史や地理など、観光と親和性が高い「社会科」や観光のフレーズを扱う「外国語」等の科目の学習効果が高まる相乗効果が期待される。
- ❑ **課題解決能力の向上や地域への参画意識の向上**
  - ➢ 社会課題に関する調査やグループワーク、フィールドワーク等を実施し、課題解決に向けた取り組みを検討実施することで、課題解決力の向上が期待される。
  - ➢ 地域の関係者と交流したり、地域の社会課題について考えたりすることを通じて、地域の一員としての意識や、社会参画に対する意識の向上が期待される。
- ❑ **観光産業を通じた職業意識の向上**
  - ➢ 観光教育で実際に観光産業の現場等で就業体験し、観光産業への理解が増えることにより、将来観光産業へ就職したり、大学や専門学校へ進学して観光について学んだりすることに関して生徒の意識が向上することが期待される。

観光教育モデル授業の概要

○モデル授業の目的

今後、観光産業のさらなる発展に向けて、観光教育の充実化が望まれるところである。しかしながら、我が国の初等・中等教育課程における観光教育の実施状況は非常に限定的であり、各校教員の自主的な取り組みによって支えられている。観光教育に対する強い関心や、経験を持つ一部の教員が積極的に活動を進めている一方で、こうした経験を持たない教員が新たに観光教育を導入するにはハードルが高いという面もある。

本事業で構築するモデル授業は、観光教育の新規導入を検討する教員に向け、授業構築の道筋を示すとともに、教員の負担や導入障壁の低減を図るものである。

○モデル授業の考え方、方針

モデル授業については、観光教育の普及につなげるため、前述の調査結果の分析・考察を踏まえ、以下の方針に基づき構築した。

方針１：観光教育のすそ野拡大を重視
方針２：子どもの主体性、探究心、地域参画等を重視したもの
方針３：取り組んだことが課題解決につながる等、役に立っている実感が得られるもの
方針４：地域との関わりを重視したもの
方針５：教員の意識改革、負担軽減につながるもの

○モデル授業の見方と使い方

モデル授業は、大きく、「導入」、「展開」、「応用」の流れに沿って、３つのモデルを用意した。

このモデル授業を参考とする際は、自分達の学校や地域の状況を踏まえてモデル授業の内容を自由にカスタマイズしていただきたいと考えている。また、モデル授業は年間（1～3 学期）を通じた開催を想定して作成しているが、「導入」部分のみを実施してもよいし、「導入」・「展開」・「応用」について、外部の専門家による出前授業等を活用し、トライアルとして短期間でまとめて開催してもよいと考えている。

構築の各目的は以下の通り。

＜モデル授業①＞

段階	テーマ	目的・授業内容
導入	**観光とは何か、観光の重要性を学ぶ。地域の観光の魅力に気づく、知る。**	観光の定義、日本の観光動向を学ぶとともに、自分が住むまちの観光の魅力に気づき、学ぶ機会とする。グループワークにより気づいた内容について話し合い、発表＆意見交換を行う。

＜モデル授業②＞

展開	**地域の課題を見つけるために調査を実施し、結果を分析して解決策を考察する。**	自分が住む地域の光る資源や魅力、観光に係る課題を見つけるために調査を実施し、調査結果を分析・考察して取りまとめる。 ＜小学生＞ ・成果：「地域の光る資源及びその理由」 ＜中学生・高校生＞ ・成果：「地域の魅力と課題及びその理由」

＜モデル授業③＞

応用	**地域の課題に対して具体的な解決策を考えて実践する。**	自分が住むまちの課題（地域の衰退、高齢化、地場産業の減少等）に対する解決策の企画を考えるとともに、実現に向けて外部協力者との調整を図るなど、準備・調整を行う。 最後には企画を実践するとともに、その振り返りにより、自分たちが取り組んだことによる成果と未達だったことを分析する。 成果報告会の企画・運営も行い、自分たちの成果の発信方法についても自ら考える。 ＜小学生＞ ・成果：「観光案内マップ」 ＜中学生＞ ・成果：「地域の課題を解決する具体的な方策」 ＜高校生＞ ・成果：「地域の課題を解決するビジネス視点の方策」

（２） 観光教育モデル授業案

構築したモデル授業案を次に示す。

モデル授業案①　導入：観光とは何か、観光の重要性を学ぶ。地域の観光の魅力に気づく、知る。

項目	座学・調べもの学習	講演	グループワーク
テーマ	観光に関する基礎情報、地域の特徴等を学ぶ	地域の観光に関わる仕事をしている外部人材の講演	自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う
授業内容	○観光客・観光の定義 ・観光客はどのような人？ ・観光とは何を意味するのか？ ・観光はなぜ重要なのか？ →【国内事例④、⑤】沖縄県が発行する副読本を活用 ○観光の形態 ・人はどのように観光するのか？ →【国内事例①】副読本「カリブの観光」を活用 ○自分のまちの魅力 ・自分のまちの自然、歴史、文化、料理、祭り、イベント等 ・何が観光客を自分のまちに引き寄せるのか？ →【国内事例④、⑤】沖縄県が発行する副読本を活用 ○自分のまちの観光動向 ・人口動向 ・産業構造 ・観光政策の状況等 →【国内事例④、⑤】沖縄県が発行する副読本を活用	○自分のまちに関する講演 ・役場の観光課、観光協会等により、地域の魅力に関する講演会を開催する。 →【国内事例④】外部講師（観光を専門とする大学教授）による講義 →【国内事例⑧、⑨】外部講師（観光産業従事者）による講演 [高校生を主に想定] ○観光における雇用に関する講演 ・地域の旅行代理業、宿泊業等の観光産業関連者により、観光産業の仕事がどのようなものかについて講演会を開催する。 →【海外事例①】就業体験時の観光産業従事者によるガイダンス →【海外事例③】ニュージーランド航空によるガイダンス	[小学生（4 年生以上）を主に想定] ○自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う。 [中学生を主に想定] ○自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う。／自分たちのまちの課題について考える。 [高校生を主に想定] ○自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う。／自分たちのまちの課題について考え、原因の仮設を立てる。
教　材	・社会科の教科書 ・出版物（図書、観光関連雑誌等） ・観光庁の各種統計データ ・関係自治体の各種統計データ	・外部人材（役場の観光課、観光協会、NPO等）	・観光パンフレット ・出版物（図書、観光関連雑誌等） ・観光庁の各種統計データ ・関係自治体の各種統計データ
ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ	・授業ノート ・授業内での発表	・講演に対する感想文 ・講演に対する感想文の発表	・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・授業内での発表

モデル授業案②　展開：地域の課題を見つけるために調査を実施し、結果を分析して解決策を考察する。

項目	グループワーク①（調査方法の検討）	現地調査	グループワーク② （調査結果の分析・考察）
テーマ	地域の観光課題を見つけるための調査を計画する	調査を実施し、地域の観光課題を見つける	調査結果を分析・考察して取りまとめる
授業内容	[小学生（４年生以上）を主に想定] 〇現地調査の計画 ・自分の知識や経験、地図、観光パンフレット等を活用して、**「地域の光る資源」**をリストアップする。 ・リストアップした資源の調査計画（調査項目、調査対象、調査方法、役割分担、行程等）を作成する。 ・選んだ資源と理由、調査計画を発表する。 →【国内事例③】地域の魅力的な資源をリストアップ [中学生・高校生を主に想定] 〇現地調査の計画 ・自分の知識や経験、地図、観光パンフレット、外部人材の講演等も活用して、**「地域の魅力と課題」**をリストアップする。 ・地域の魅力と課題に関する調査計画（調査項目、調査対象、調査方法、役割分担、行程等）を作成する。 ・地域の魅力と課題、理由及び調査計画を発表する。 →【国内事例⑨】３泊４日の研究旅行で生徒が班行動の現地調査を実施するための計画を作成	〇現地調査の実施 ・調査計画に基づき、現地踏査、関係者へのインタビュー等を行い、特徴、気づいたこと、地域内外の人に知って欲しいこと等を調べる →【国内事例①】東京を代表する駅弁について〇〇にインタビューを実施 →【国内事例②】京都市内の観光地で観光客にインタビューを実施 →【国内事例③】地元事業者（カフェ、パン屋等）への取材を実施 →【国内事例⑥】現地のガイドコースで実際にガイドスポットを確認 →【国内事例⑦】温泉活性化を模索するため、旅館等へインタビューを実施 →【国内事例⑧】ポップ畑等の現地でフィールドワークを実施 →【国内事例⑨】都内で都道府県のアンテナショップ巡りを実施／３泊４日の研究旅行を行い、生徒が班行動で現地調査を実施 →【国内事例⑩】高校生が商品開発のために生産者を訪問してヒアリングを実施／高校生がプロのバイヤーからレクチャーを受けながら、地元の生産者や製造者の話を聞きに行く	[小学生（４年生以上）を主に想定] 〇現地調査の分析・考察 ・調査結果を分析し、地域の光る資源について取りまとめる。 →【国内事例①】「食」、「農業」、「観光」、「地理」における東京のブランドについて発表会（１時間）を開催 ・地域の資源が現在観光客にとって魅力である（又は魅力ではない）理由、今後更に観光客を引き付けるためのアイデアを考察する。 [中学生・高校生を主に想定] 〇現地調査の分析・考察 ・調査結果を分析し、地域の魅力と課題、その理由について取りまとめる。 ・地域の課題を解決するためのアイデアについて考察する。 →【国内事例②】京都市内の観光地で観光客に実施したインタビュー調査の結果を分析し、報告資料を作成（パワーポイント）
教　材	・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・授業内での発表	・調査計画書	・アンケート記録 ・インタビュー記録
ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ	・調査計画書 ・アンケート用紙 ・インタビュー用紙	・アンケート記録 ・インタビュー記録	・調査報告書

モデル授業案③　応用：地域の課題に対して具体的な解決策を考えて実践する。

項目	グループワーク	地域での意見交換・営業活動・実践	成果発表・表彰
テーマ	既存資料や調査結果を基に地域の課題の解決方法を考える	地域関係者の意見を踏まえて地域での実践やビジネスとしての可能性を考える	意見交換や実践の結果をとりまとめて発信する
授業内容	[小学生（4年生以上）を主に想定] ○「観光案内マップ」の作成 ・自分の知識や経験、地図、観光パンフレット、及び現地調査で調べたこと等を地域やテーマ毎に整理・分類し、地図上にまとめる。 →【国内事例③】収集した情報や写真を地図上にまとめた [中学生を主に想定] ○「地域の課題を解決する具体的な方策」の検討 ・PR、イベント、勉強会、観光ガイド等（自分たちだけで実現できることを重視）を考える。 ○実践に向けた企画・準備 ・具体的な企画を考える（目的、プログラム、スケジュール、外部協力者の調整等） →【国内事例⑦】浅間温泉の職業体験やイベントに参加して知見を深めた [高校生を主に想定] ○「地域の課題を解決するﾋﾞｼﾞﾈｽ視点の方策」検討 ・地元とコラボしたモデルツアーの実施、特産品開発、特産品の販路開拓、PR、イベント、観光ガイド等を考える。 ○実践に向けた企画・準備 ・方法を実現するための具体的な企画を考える（目的、プログラム、スケジュール、外部協力者の調整等） →【国内事例⑧】外部団体とも連携して課題ごとに解決策を考えた	[小学生（4年生以上）を主に想定] ○地元関係者への報告・PR及び意見交換 ・観光ボランティア等、実際に地域で観光案内を担う立場の方から、日頃の取組の様子を教えてもらう。 ・作成した「観光案内マップ」について、地域関係者（役場、観光事業者、NPO、観光ボランティア等）へ報告・PR [中学生・高校生を主に想定] ○地域関係者への営業活動 ・考えた企画を地域関係者（役場、観光事業者、NPO等）へ報告・PR／連携する事業者との合意 ・解決策を実現するための準備（資材・備品等の準備、役割分担、外部への協力依頼等）を進める ○解決策の実践 ・準備した解決策を実践する。	○結果の振り返り ・実践の結果を振り返り、成果と課題を整理する。 ・それらを発表資料として取りまとめる。 ○成果発表会の企画・準備 ・発表会の企画、準備を進める。 →【国内事例⑧】行内外で課題解決策を発表した →【国内事例⑨】4月から11月までの取組内容をまとめたレポートを11月末に作成 ○表彰 ・生徒・先生・保護者・地域関係者全員で投票を行い、上位グループの表彰を行う（学年全体で行う等、グループ数が多い場合を想定） →【国内事例③】最終発表会で上位となった3チーム（○チーム参加）を表彰し、観光アプリに地元小学生おすすめルートとして掲載
教　材	・出版物（図書、観光関連雑誌等） ・観光庁、地方公共団体の各種統計データ ・地図、パンフレット ・アンケート記録、インタビュー記録、調査報告書	・地域の魅力を伝える観光案内マップ ・地域の魅力を伝える企画提案資料 ・官公庁が出している観光や地域活性化に関する事例集、書籍 ・外部人材（観光振興や地域活性化に関する専門家によるハンズオン支援）	・地域関係者との意見交換の記録 ・実践の記録
ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ	・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・地域の魅力を伝える観光案内マップ ・地域の魅力を伝える企画提案シート（パワポ等）	・地域関係者との意見交換の記録 ・実践の記録	・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・授業内での発表

6. 今後の展望

本事業では、観光教育の普及を目的として、国内外の小中高等学校等における観光教育の現状について調査を行った。具体的には、国内外の先進事例（国内 10 事例、海外３事例）を収集し、観光教育を進める上でのポイント等を整理するとともに、その効果検証を行った。また、専門家の意見も取り入れながら、今後の国内における観光教育の推進に資するモデル授業を段階（「導入」→「展開」→「応用」の３ステップ）に応じて構築したところである。

また本事業では、観光教育の導入・実践により、子どもたちの自主性や探究心が育まれるとともに、観光を将来の職業として意識する事例もある等、大きな成果が生まれていることが分かった。今後、本報告書を参考にしながら、観光教育の重要性やその具体的な進め方等に関して認知・理解が進むとともに、全国各地で観光教育の導入が進められることを期待したい。

観光教育の導入に際しては、まずは「総合的な学習の時間」の授業における導入が想定されるが、歴史や地理といった観光教育と親和性の高い内容を扱う「社会科」、学習指導要領の改定（※注）に伴って小学校 3～4 年生で授業が行われる「外国語」、小学校 5～6 年生で科目として扱われる「英語」等の教科においても、観光教育を授業の題材として扱うことにより、各科目の学びが深まる等の良い相乗効果が期待できる。また、改定後の新しい学習指導要領において重視される“地域の外部人材との連携”や“社会に開かれた学校教育”のポイントについて、観光教育で地域の外部人材と連携した授業を行ったり、地域へフィールドワークや調査等で児童や生徒、教員等が出て地域の人々と交流したりすることが良い取組例となることが期待できる。

一方、モデル授業の導入・実施にあたっては、初めて観光教育に取り組む学校にとっては様々なハードルが生じることも想定される。また、観光教育を導入・実施することが教育現場に新たな負担を増やすことにつながらないように配慮することが必要である。そのため、観光教育に関する情報発信、観光教育モデル授業の積極的な導入を検討している学校への支援（専門家の派遣や効果の検証等）等を行っていくことも重要と考える。

※注：新学習指導要領は、小学校では平成 30 年度～平成 31 年度が移行期間、平成 32 年度から全面実施、中学校では平成 30 年度～平成 32 年度が移行期間、平成 33 年度から全面実施、高等学校では平成 31 年度～平成 33 年度が移行期間、平成 34 年度から年次進行で実施が予定されている。

観光教育に関する調査事業

報告書

平成３０年３月

国土交通省　観光庁　観光産業課

〔調査実施機関〕(株)日本能率協会総合研究所
東京都港区芝公園 3-1-22 電話：03-6435-6658